

津久見市地域おこし協力隊



隊員 No.1

名前：菅智生(任命当初年齢 49 歳)

活動地域：四浦地区

活動期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日

Q1.勤務地として津久見市を選んだ理由は？

全国で地域おこし協力隊の募集がありましたが、比較的寒くない処・海と山がある処を中心に探しました。募集中の地域、年齢制限等を考慮し、その中で津久見市四浦地区に行きつきました。正直なところ津久見市の存在は募集の際に初めて知りました。あえて縁もゆかりもない処を選んだのは、先入観なく白紙の状態で見つけたからです。



Q2. 津久見で主にどのような活動をしましたか？

地域の現状を知るために地区行事（草刈、河津桜保護管理、清掃、祭りなど）に積極的に参加し、情報収集しその中で問題点・改善点等を探りました。いくつかの提案はしましたが、採用には至らず、残念ですが1年半の任期で起業や定住にいたる仕事にはたどり着くことができませんでした。



Q3. 活動する中で楽しかったことは？

四浦の自然の中での暮しが全て楽しかったです。海の幸・山の幸を堪能し、猪の捕獲は特に貴重な体験でした。猪・鹿・猿・野兎・貉・鶯・海亀など普段出会わない動物と遭遇できました。自分自身は積極的に対人関係を築くのが得意ではありませんが、地域の人々との触れ合いが楽しく、皆様と交流ができたことは財産となっています。



Q4. 活動する中で難しかったこと（つらかったこと）は？

移住希望者家族を紹介し現地案内等行いましたが、結果として移住につなげることはできませんでした。過疎化が進む地域の中では知らない人が移住してくることに對する不安もあるのだと知りました。移住者の受入れにはみな賛同するものだと勘違いしていました。草刈等肉体的にきつい時もありましたが、作業に慣れてくると平気になっていました。

Q5. 地域おこし協力隊を経験してよかったことは？

津久見市四浦地区という全く縁のなかった地域に触れることができ、知らない世界の一部でも知ることが出来たことが素晴らしい経験になっています。田舎だから当たり前と言ってしまうのはダメなのでしょうが、人と人の繋がりが濃いこと、おもてなしの心を持っていること等あらためて自分の心根の貧しさを痛感した次第です。四浦での出来事が、私自身の残りの人生に影響を与えていくのは間違いないと思います。退職後は何処かの田舎暮らし希望です。四浦も候補の一つです。